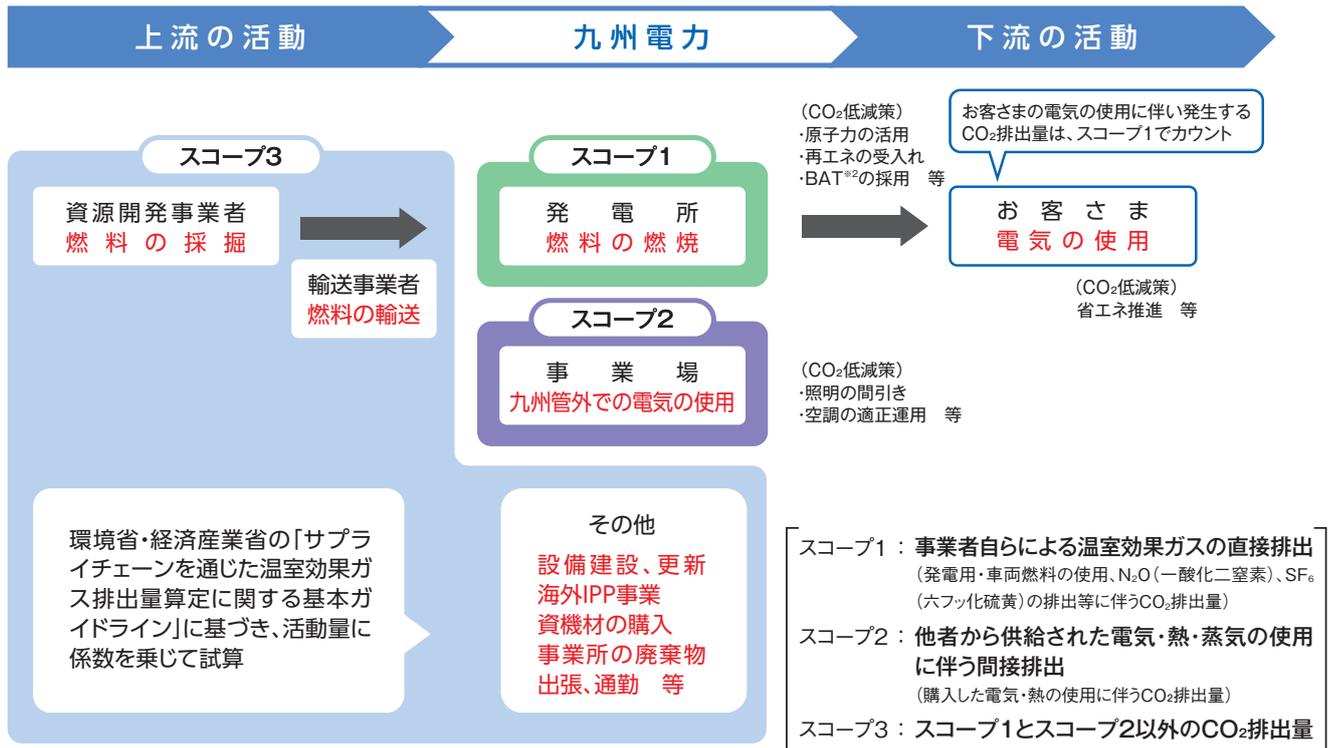


サプライチェーン^{※1}全体の温室効果ガス排出量

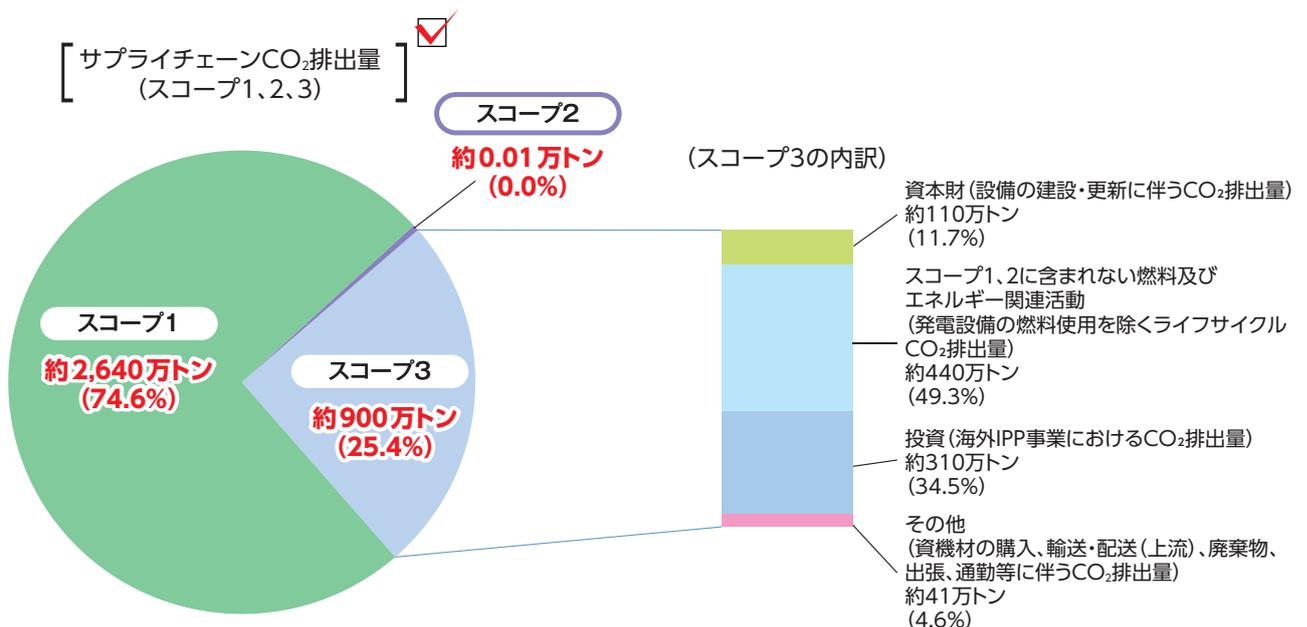
※1:原料の段階から、製品やサービスが消費者に届くまでの全プロセスの繋がりを示す

スコープ1~3の温室効果ガス排出の状況

温室効果ガスの直接排出(スコープ1)に加え、間接的な排出(スコープ2、3)の適切な管理についても関連サプライヤー(取引先、グループ会社など)に働きかけ



※2:経済的に利用可能な最良の技術(Best Available Technology)



(注)2017年度の実績。四捨五入の関係で合計が一致しないことがあります

スコープ3における具体的な取組み事例

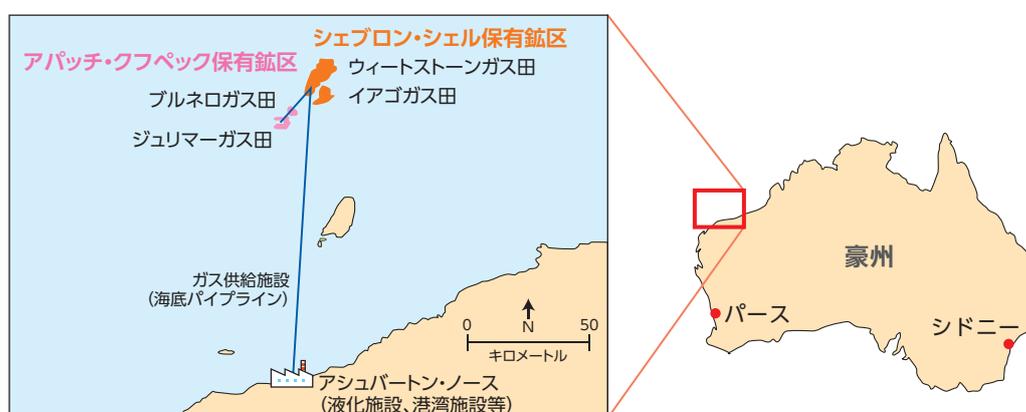
環境負荷の少ないLNGを安定的に確保するため、海外権益でのLNG生産開始、LNG輸送協力体制を構築

【海外権益におけるLNG生産】

環境負荷の少ないLNGを安定的に確保するため、2011年に当社にとって初めて権益(権利と利益)を取得し参画している豪州ウィットストーンLNGプロジェクトにおいて、西豪州北部沖合のウィットストーン及びビアゴガス田から産出される天然ガスを原料とするLNGの生産を2017年10月から開始しました。

同プロジェクトでは2系列のプラントを建設しており、生産を開始した1号系列に加え、2号系列が操業を開始した場合、年間890万トンのLNGが生産される予定です。

■ プロジェクトの位置図

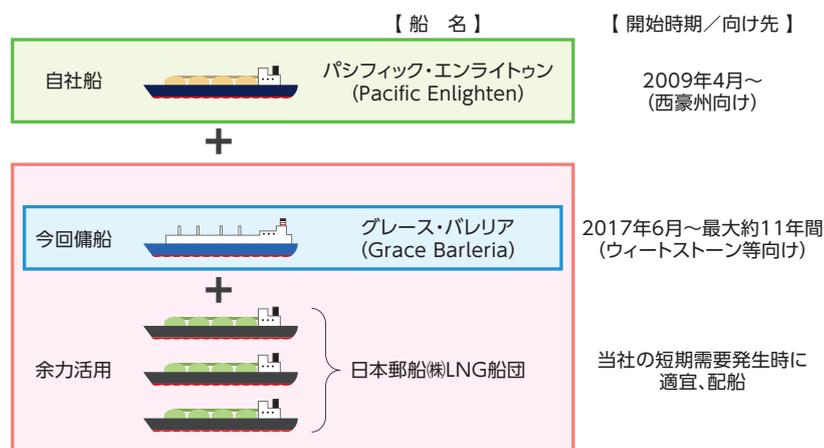


【輸送協力体制の構築(日本郵船(LNG)船団余力の有効活用)】

2017年6月、LNGの短期需要発生時における、LNG輸送の柔軟性向上を目的に、日本郵船(LNG)船団の有効活用など、協力体制構築に関する覚書を締結しました。

日本郵船(LNG)が保有する「グレース・バレリア」のほか、その他船団を配船・活用することにより、LNG輸送の柔軟性が大幅に向上するものと考えています。

■ 日本郵船(LNG)船団余力の有効活用イメージ



総トン数100,450トンのLNG船
グレース・バレリア (Grace Barleria)